

京都府食品ロス削減推進計画（仮称）の中間案に対する意見募集結果

1 意見の募集期間 令和3年12月14日（火）から令和4年1月11日（火）まで

2 意見募集の結果 3人 10案件

3 御意見の要旨及びそれに対する京都府の考え方

No.	項目	御意見の要旨	京都府の考え方	
1	第1章 総論	2ページのSDGsアイコン表記について、提案では、消費者庁資料をそのまま転用しているとのことだが、アイコンとターゲットの書かれた枠を同色にするのはよいが、アイコンと接触してしまうと表記上問題だと思う。少し離れた方が見栄えもよいと考える。	御指摘いただき、ありがとうございます。2ページに掲載している食品ロスとSDGsのつながりに関する図を修正します。	
2	第2章 食品ロスの 現状と課題	賞味期限と消費期限の違いを食品製造業者、卸売業者及び消費者が理解し、この3者が食品ロスを出さないよう努力することが必要。 特に、卸売業者は、1/3ルール等の緩和など商慣習の見直しとともに、賞味期限が近い商品の値引きを行い、消費者は、賞味期限の商品が期限が来ていることにあわせて捨てないようにしていくべき。	商慣習の見直しについては、国において検討が進められており、見直しを行う企業は増加傾向にあります。府としても、事業者及び消費者に対し、引き続き賞味期限と消費期限の違いについて、周知を図るとともに、事業者による商慣習の見直しを促進します。	
3	第3章 基本方針	消費者の意識に関する目標は設定しているが、多様な主体が一体となって食品ロス削減に取り組むためには、事業者に係る数値目標についても設定すべき。	御指摘のとおり、各主体が一体となって食品ロスの削減を図るためには事業者に係る目標も必要であるため、「食べ残しゼロ推進店舗」の店舗数を数値目標として設定します。	
4	第5章 施策の推進	府内の児童・生徒の校外学習時の昼食や、府内に訪れる修学旅行生の夕食時など、食を通じて食品ロス削減に関心を持つ機会にしてほしい。 おいしい食事を食べた思い出とともに、料理を食べることは、命あつた物をいただくという気持ちや、食べ物を粗末にしないことを学んでもらい、自宅でも家族と話をしてほしい。	自然や命、食に関わる多くの人々への感謝など食育については、「京都府食育推進計画」に基づき取組を実施しており、「きょうと食いく先生」による体験型食育やICTを効果的に活用した普及啓発等を行っています。今後も関係部局と連携の上、取組を進めたいと考えております。	
5		新型コロナウイルス感染の収束後の食育指導活動のあり方を再考してもよいと思う。調理実習や飲食を通じて野菜や果物の普段食べずに捨ててしまうところも工夫次第で食べられることを小学生に伝えるとよいと思う。食育・環境教育を通じて、食品ロス削減に向けた啓発になる。		
6		食品ロスについて知っており、さらに知りたいと思っている方、削減に積極的に取り組み、地域社会の人々と協働しようと思っている方なら誰でも食品ロスの削減推進を担う人材になれる可能性がある。 現在は、研修会等の開催は困難だが、自分の能力にあった活動として、冷蔵庫の整理、スーパーでの過剰購入の注意や「30・10運動」の実施等ができる。		
7		ドギーバッグの普及は、食品ロス削減につながる。ぜひ取組を継続してほしい。 また、ご飯の量や器の大きさを選べる飲食店もあるので、消費者自身も自分が食べられる量を考えて料理を注文してほしい。		
8		生産者や小売店が連携し、キズのある食べ物等を訳あり商品として売り出すことは、消費者にとってもありがたいことである。 今後の課題は、食品製造業者がどのように規格外の食材を食品加工し、商品化できるか。府内においても成功例を作してほしい。		
9		誰もが遠慮なくフードパントリー等の会場に気軽に足を運び、地域住民も快く開催を見守り、応援していただくには、府民のロコミ、府の広報活動を継続し、ボランティアとして参加する府民を増やすことも必要だ。 フードバンク活動の認知を上げるには、地道で長い活動をしていくことと、開催が地域で支持され、地域住民に協力していただける活動にすることが大事である。		
10		14ページの災害時用備蓄食料の有効活用の促進について「京都府の災害時用備蓄食料についても、関連部局と連携し食品ロスにならないように計画的に有効活用します。」と追記してほしい。		計画の11ページに、京都府の役割として、「フードドライブや未利用の災害備蓄食品の有効活用を実施する。」と記載しています。